

新タイプ 腐熟促進材

10aに10kg(1袋)でOK!

顆粒状

ワラ分解キング

低温時の稲わら分解に威力発揮!
ワキの発生を抑え、根張りを良くする。
環境にやさしい土づくり!

正味10kg

地球にやさしく

菌
グッド!!



水田におけるワキの発生抑制



低温分解菌



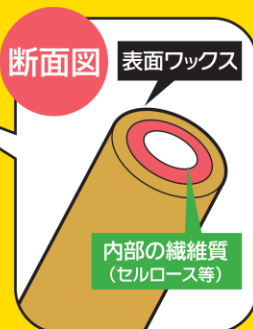
資材の性状



動力散布可能

供給: JAグループ 製造: KCC 片倉コープアグリ株式会社

ワラ分解キングの特長

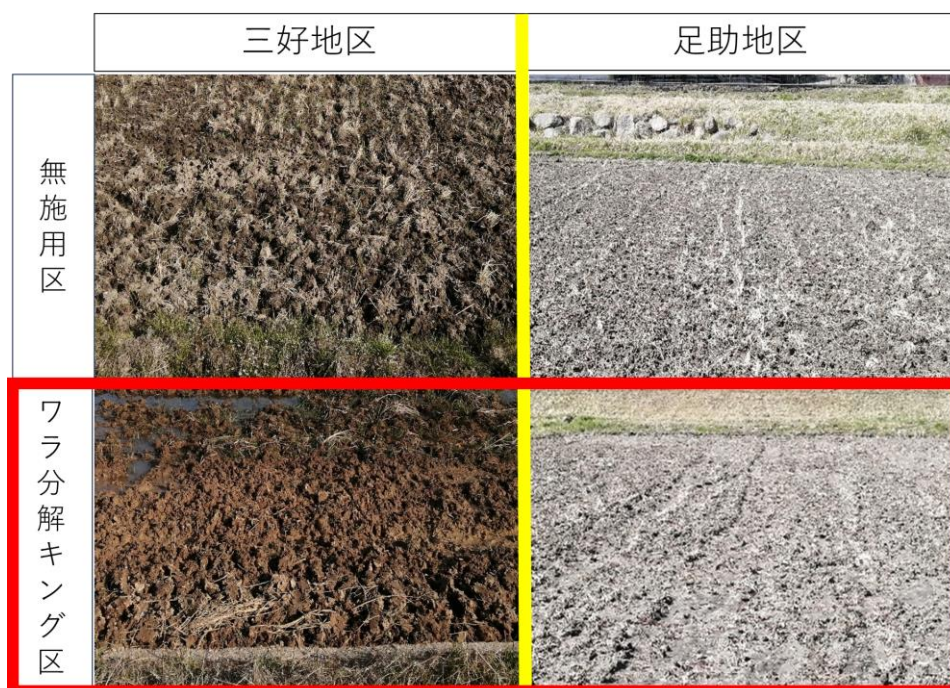


ワラ分解キングは、ワックス分解菌とセルロース分解菌のコンビネーションにより稲わらの分解を促進する**新しいタイプ**の分解促進材です。

分解菌の種類

名 称	分 解 能
ペニシリウム属(糸状菌)	ワックス(脂質)分解菌
タラロマイセス属(糸状菌)、プリエスティア属(細菌)	セルロース分解菌

稲わら分解試験



【試験場所】

- ①JAあいち豊田三好地区
- ②JAあいち豊田足助地区

【試験方法】

2020年11月ワラ分解キング施用
2021年3月写真撮影
(施用約4か月後)

【結果】

田面に露出している「稲わら」が、**「ワラ分解キング」**施用区の方が少ない
⇒分解が進んでいる

使用上の留意点

- ワラ分解キングの使用量は、10aあたり10kgです。
- 稲わらに直接ふりかけて下さい(降雨後など、稲わらが湿った状態がより効果的です)。
- ワラ分解キング施用後は、できるだけ早く土壌にすき込んで下さい。
- すき込みの耕深は作業効率と酸素の供給を考慮して、5～10cmの浅うちにして下さい。
- 秋施用が基本ですが、春施用の場合は代かき45日前までにすき込んで下さい。
- 稲わらにはケイ酸が含まれています(10aあたりケイ酸:60kg)ので、ケイ酸の水田への還元を行い、不足分はケイカルなどのケイ酸質肥料で補うと、より効果的です。
- 稲わら分解のほかに、植物残さ・残根の分解にもご使用できます。
- 直射日光、長期高温になる場所を避け、開封後は速やかに使い切して下さい。

詳しい使い方については、最寄りのJAにご相談下さい。